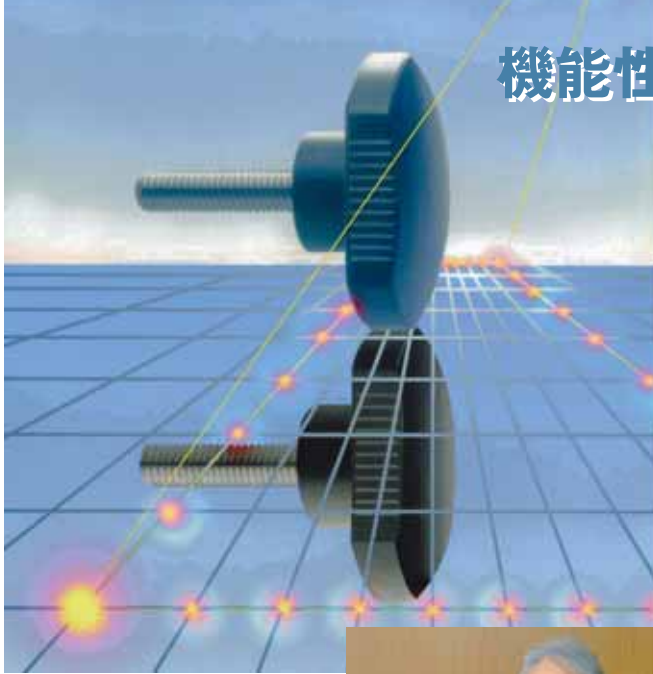


機能性と装飾性を両立する プラスチック“成形力”

経験が信頼を生み、信頼が技術を育てました。

一步先に行く・・・とよく言いますが、
私たちは、まず足下を見つめ、考えて、
理解してから三歩先に行くかもしれません。

私たちスタッフは、そんな気概を持って
常に提案し続けます。



プロネジ開発を語る
大西峰夫 会長

大峰化学株式会社

耐久性と軽さを兼ね備えた 「オオミネプロネジ」

プラスチックという素材は、大きく熱硬化性樹脂と熱可塑性樹脂の2種類に分けられる。この素材が日本に登場した頃は前者が多く扱われていたが、熱硬化性樹脂には「割れやすい」という難点があった。

大峰化学が開発した「オオミネプロネジ（ナイロン樹脂を頭に持つ金属ねじ）」は、熱硬化性樹脂に対して熱可塑性樹脂を使用。また熱硬化性樹脂以上の強度の維持を実現しており、ヤンマー等の農業関連メーカーにて幅広く活用されている。

1960年代の開発以降、70年代に入つて、田植え機が普及しはじめた。水田での作業のため、何よりも軽さが求められた田植え機。その需要と合致したオオミネプロネジの登場により、農業分野で使用される機材の耐久性を大幅に向上させたのだ。

また、熱可塑性樹脂は着色に制限がない（熱硬化性樹脂の場合は白黒、赤程度）。この特性は、色分けによつて機材の操作自体の煩雑さを軽減する役割も果たしている。

使用者の利便性を第一に考えた 介護機器用ねじを開発

高齢化が叫ばれて久しい昨今、医



療、介護部門の機器も日々進歩を遂げているが、この分野においても同社の技術が活かされている。

独自のインサート技術によつて、課題であった点滴装置の軽量化に成功。大手医療メーカーで採用されている。平成20年度からは、使用者の安全性を向上させるための頭の軟らかなねじの開発に着手。すでに技術的な問題はクリアされており、試作と改善を重ねながら平成21年度内での実用化を目指す。

「これまでの積み重ねがあるので、技術的にはそれほど難しくはありません。それよりも重視すべきは現場の声、そしてメーカーさんとの連携だと考えています」とは大西社長の弁。さらに続けて、「老いや病氣、怪我は誰もが避けて通れないことですからね。特に今の日本の状況を見れば、この分野での貢献は私たちの使命だと思っています」と話してくれた。

企画、製造、販売にまでおよぶ プラスチック成形技術

可塑性樹脂は、熱を加えるとうかがみになりやすい。その先入観を捨て、球状成形を実現させたレバレッジリップ「握り玉」。金属とは違って温かみがあり、なおかつ強度の問題もクリアしたT字型の「蝶ボルト」。それぞれ独自技術によつてこれまでになかった新しい製品を次々と創り続ける大峰化学。検油棒、ギア、カバー類等、あらゆるプラスチック製品の企画段階から製造、販売までを担えることが同社の大きな強みである。

実際に各種メーカーからは様々な相談が舞い込んできているようだ。

「話を聞いた段階では、さすがに厳しいと思うこともあります。しかしその時点で解決法がなくてもまずは考え、試してみることがから始まります。そうすることが新しい技術の確立にもつながるんですね」と大西社長は語る。

顧客が必要とする技術を生み出し、要望に応えられるよう創意工夫を重ねること。この姿勢こそが同社の根幹をなしているのだ。

主な事業内容

プラスチック製工業機械・農業機械・医療機器部品、自社製インサートボルトの開発・販売、プラスチック射出成形用金型の設計・製造・販売、特殊金具の開発・試作・製造等



大西康弘さん
代表取締役社長

Company Profile

大峰化学株式会社

住所 / 〒571-0002
大阪府門真市岸和田3-29-1
創業 / 昭和35年
設立 / 昭和46年
資本金 / 1,000万円
従業員 / 12名 (平成21年1月現在)
TEL / 072-882-5249
FAX / 072-882-6244



<http://www.mkc.zaq.ne.jp/omine/>